

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立仰木小学校

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要》

<教科について>

- ・どの教科も県や全国平均を上回る結果となりました。国語科では、思考力、判断力、表現力の内容項目に「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域があり、「書くこと」の領域について、他の領域と比較して正答率が高い傾向にありました。「読むこと」の領域は、他の領域と比較して低い傾向にありました。
- ・算数科では、「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」の領域で調査があり、どの領域でも正答率が高い傾向にありました。
- ・理科では、「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の領域で調査があり、「地球」の領域について、他の領域と比較して正答率が高い傾向にありました。「粒子」の領域は、他の領域と比較して低い傾向にありました。

<児童質問紙について>

- ・「学校は楽しい」「友達関係に満足している」「話し合い活動での気づき」に関する項目で、高い傾向にありました。一方で、「自分で学び方を考え、工夫すること」「課題解決に向けて自ら取り組んでいるか」「地域社会をよくするために何かしたい」に関する項目においては、全国より低い傾向にありました。

《強み・弱み》

国語科では、県や全国を上回る結果でしたが、記述式の問題については、さらなる伸びが期待される状況です。

算数科では、県や全国を上回る結果でしたが、記号を選んだわけを記入する問題において、「なぜそうなるのか」を誤って捉えていたり、根拠を明確に示せていない状況が見られました。

理科では、県や全国の平均を上回る結果となっており、これまでの学習内容の定着がうかがえます。

【指導の充実に向けて】

「仲間の良さを認めて自ら進んで学び考えを深める子ども～学びを愉しむ仰木っ子～」の育成を図ります。そのために、

① 「個別最適な学び」と「協働的な学び」のどちらも大切に授業づくりを進めます。

- ・少人数の利点を活かし、一人一人の課題に応じた指導の充実を図ると共に、支持的な学級を醸成し、話し合い活動などを通して、「主体的・対話的で深い学び」を実現することに力を入れます。
- ・ICTを活用し、一人一人が分かったといえる授業の充実を図ります。

② 自分の意見を持ち、根拠に基づいて話し合う力を育む取り組みを強化します。

- ・一人ひとりが自分の意見を持つだけでなく、その意見をもつことになった理由を根拠立てて考えたり、工夫して表したりすることが実現できるように努めます。
- ・児童が学習課題に関心を持てるよう、課題の提示方法や学習環境を工夫するよう努めることで、児童が自分の意見を持てるよう学習意欲を高めるとともに、主体的に学んでいけるようにしていきます。

③ 仰木小学校だからこそできる体験活動を通して、仰木が大好きな子どもたちを育み続けます。

- ・地域教材を取り入れた社会科・生活科・総合的な学習の時間での取組や家族も含めた地域の人々との関わりを通して、恵まれた自然や文化を伝えてきた郷土を誇りに思う意識の醸成と共に、豊かな心の育成を図ります。
- ・スポーツデーや児童会の活動、日々の清掃活動において、全校たてわり(異学年)で取り組み、高学年児童のリーダーシップの育成および豊かな人間関係づくりに努めます。